

めずらしい女子高生

茨城県立水戸工業高等学校 電気科 3年

池田 陽

「あ、変圧器だ。ここの電線は高圧なんだ。」

朝、高校に登校中、自転車に乗りながら電柱や電線を見て仕組みについて考える。がいしを見て、ラインが赤かったら高圧。色がついていなければ低圧。

通学路には大きな野球場があり、その近くの電線に赤いがいし取り付けられている。めずらしい。球場では大きな電気が必要だから、高圧線が近くを通っているのだろう。教科書に載っている機器の写真で学んだことを実際に生活している中で見つけると嬉しいものだ。

これまでは、全く興味のないものだった。いつから気になり始めたのだろうか。

今思うと、これらが目に入るようになったのは第一種電気工事士の勉強を始めてからだ。

約2年前、いところが水戸工業高校に楽しそうに通学している様子を見て、軽い気持ちで電気科に入学した。中学生の頃は物理の電気分野が一番苦手だったが、日々電気について勉強していくうちに興味を持ち、いつの間にか得意分野になっていた。

高校2年生の夏前、第一種電気工事士の資格取得に挑戦する人の募集があった。私は迷わず手を挙げた。参考書を手に入れて開いたその瞬間、全ての文字が暗号のように見えた。この試験を受ける前に第二種電気工事士の勉強をしたが、その内容とは比べものにならないほど難しく、まだ授業で習っていない部分がほとんどで、もうお手上げ状態だった。

しかし、私は「絶対に合格してやる」という気持ちで半年の間、毎日猛勉強をし、やっとの思いで合格した。

電気科の友人と一緒にレストランに行った。今までは、ご飯を食べるだけだったが、天井の照明や換気扇を見て、配線を想像したり、工事の方法を考えたりするようになった。

そして、分電盤の中をのぞいたり、コンセントを分解し、触ってみたり、自分が学んできたことが本当なのか実際に見たりしたい。

17歳の誕生日には、より線用のワイヤーストリッパーを買ってもらった。頼んだ時は、家族に笑顔で「めずらしい女子高生だ。」と言われた。

現在持っている資格だけでは、多くのことは出来ない。私の夢は、病院やビルだけでなく、球場やライブ会場の電気配線をすることだ。そのためには、今持っている資格よりも上の資格を取得しなければならない。

夢を叶えるため、これまで以上に努力していく。